

8年11カ月目のイレブンアクション～6団体9人参加！ 「原発ゼロ」基本法を実現しようとアピール ―泊原発再稼働の賛否問うシール投票は反対28、賛成2―



今冬一番の寒気が北海道に到来し、旭川市内では-37℃まで下がったところも報道される中、札幌市内は、今冬2番目の積雪でバスの遅延が相次ぐなかでの2月のイレブンアクション。

来月は福島第一原発事故から丸9年になる今も、5万人を超える県民が避難を強いられ、事故収束の見通しも立たない福島の現実、原発と人間社会は共生できないことをはっきり示しています。復興五輪をうたい、原発事故を終わったかのように見せようとする安倍政権の相次ぐ被災者への支援の打ち切り、東電の賠償打ち切りは許せません。

この日最後にマイクを握った北海道革新懇の小

室まさのり事務局長は、昨日9日、札幌市内で開かれた「福島をつたえ、再生可能エネルギーを学ぶ」福島・ドイツ高校生交流プロジェクトの活動報告会に参加し「ドイツでは福島原発事故直後に2022年までに原発からの撤退を決め、次々廃炉にする一方、再生可能エネの普及に力を入れ、すでに電力の5割以上を賄うに至っていることが報告されました。福島の高校生は、日本でも原発から撤退し、再生可能エネルギーへ転換させようと未来に目を向けています。今こそ、未来を担う高校生や青年・学生と共に、原発から撤退し再生可能エネルギーへ転換する政治を実現しましょう」と力強くよびかけました。三上友衛道労連議長は、「野党が国会に提出している『原発ゼロ基本法案』を実現しましょう」「泊原発の再稼働の賛否を問うシール投票にご協力下さい」などと訴えました。畠山和也前衆議院議員、米谷道保原発連代表委員も訴えました。



この日の泊原発の再稼働の賛否を問うシール投票は、反対28、賛成2でした。

2019年度原子力防災実動訓練(2月13日)を視察(監視)しよう!

参加希望者は12日(水)午後2時からの事前打合せにご参加を。

今回の原発連の視察(監視)活動は、主に、広域避難途中の退域時検査所(余市町内の道立中央水産試験場に設置)や広域避難先の札幌市内の体育館やホテルなどで実施を計画する予定です。事前の打ち合わせを12日(水)午後2時から、札幌エルプラザ2階市民サポートセンター会議コーナーで行います。参加希望者は、市民サポートセンター2階の原発連ブース2を訪ねてください。余市町への視察には、13日早朝に出発の予定です。